



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第八二号〜

立夏

五月五日



草合

貝合、歌合、絵合など日本では古くから左右に分かれ、優劣を競う物合ものあわせという遊びがあります。ちょうど五月五日の節句の頃に行われた物合に、草合がありました。

草合は野山で見つけた草花を取ってきて、一つひとつ相手と見せ合い、判定者がその瞬間に双方の優劣を判定するもの。香りが高いとか、色が良いなど、判断の基準はさまざまです。ちょうど、草花がすくすくと伸びる初夏の季節に適した遊びといえます。時期によっては菊合や女郎花合おみなえしなど決まった花を題材にした場合もあったようです。もともとは中国の鬪草を真似たものといわれますが、「鬪う」ではなく、「合せ」としたのは当時の日本人の感性でしょう。こうした「合せ」の遊びで、美意識を高めたに違いありません。

草合は平安時代によく行われたようですが、さらに時代をさかのぼると、薬獵やくりょうといふことがなされていました。『歴代天皇のカルテ』篠田達明著には、あの聖徳太子の健康法が薬獵だったと記されています。

薬獵は『日本書紀』の推古天皇の項に記される宮中行事で、群臣たちが冠位十二階の位に従い、服の色も冠の色に合せ、正装して参加したといいますから、ずい分と華やかものだったのでしょう。薬となる鹿の若角を取ったり、薬草の採取をしました。

野山へ供ともを引き連れ、鹿など動物を追い回しながら薬草を探し、競う楽しみ。すがすがしいこの季節、壮健だったという聖徳太子に習う健康法の一つです。

文 千種清美